



「今夜の酒には骨がある」1998 | 作家蔵

「横尾忠則の『昭和NIPPON』—反復・連鎖・転移」は、横尾さんの多彩な作品を通じて「昭和」という時代を考察するものです。青森県立美術館と共同で企画し、昨年秋にまず同館で開催されました。青森県美では企画展示室ではなく、あえてコレクション展示室を使い、それぞれ表情の異なる変化に富んだ空間を活かした展示構成となっていました。



「木花開耶媛の復活」1998 | 作家蔵 (東京都現代美術館寄託)

ご存知のとおり、青森県美は巨大な美術館です。はるかに小ぶりな、基本的に大小二つの展示室しかない横尾現美に、この独特な展示構成を移植するのは至難の業でした。頭を悩ませていたところ、横尾さんからさらにハードルをあげるひと言が。「青森と一緒にやつまんないよ。神戸ならではのカラーを出さない。そうだ、『肖像図鑑』展(2013年9月28日～2014年1月5日、横尾忠則現代美術館)に展示中のポートレートシリーズを30点くらい残そう。ぼくが選んだから」えっ！どうやって削るか悩んでいるのに、逆に増えるんですか…

とはいえ、横尾さんの作品世界の「膨大さ」をそのまま提示したかのような青森会場とは異なり、横尾現美は焦点を絞り込んで、より明快な展示になったと思います。加えて「昭和を彩った人々」のポートレートが全編にちりばめられ、スパイスとして魅力を引き立てています。青森をご覧になった方にも、ぜひ再度ご覧いただければ幸いです。



「神風使切根之図 (平凡パンチ) 原画、色指定表」1968 | 作家蔵

さて、横尾さんにとって「昭和」とは何なのでしょう。オープニングのスピーチで、横尾さんはこう語りました。「ぼくには“平成”はともピンと来ない。いまだって、“昭和89年”の方がしっくり来ます。そのあと応接室で浅田彰さんと談笑していた際も、“平成”ってパツとしませんよ。やっぱ“昭和”ですよ (浅田)」「そうそう。“平成”っていう元号がテレビで発表されたとき、小淵さんが掲げた書の情けなかったこと。“へへせへ”みたいな (横尾) 容赦ない平成バッシング(?)が続きます。



「青森県のせむし男 (天井桟敷) 舞台背景原画」1967 | 作家蔵

横尾さんと「昭和」の関係について、様々な分析が可能でしょう。詳しくは本展の図録もご参照いただければ嬉しいのですが、あらゆることがデジタル化された「平成」に対して、「昭和」はアナログの時代でした。今回、横尾さんがグラフィックデザイナーであった時代の版下や原画などが30点以上展示されています。現在のDTPに比べて、印刷プロセスに「肉体」が直接関わる比重はるかに高かったからこそ、これらの貴重な作品が残されたわけです。

また、横尾さんの作品に郷里の西脇の記憶にまつわるものが多いことはよく知られていますが、西脇で実際に起きた殺人事件にもとづく《今夜の酒には骨がある》では、民家の庭先で行われた死体検分と、それを野次馬的に覗き込む横尾少年の姿が描かれています。三島由紀夫も指摘するように、むかしの日本はトイレも汲取式で、「死」や「排泄」などを含めて「肉体」に関わる様々な物事がより身近にあったのです。オープニングのスピーチで、横尾さんはこのようにも述べました。「我々の世代は敗戦を経験しました。軍国主義から民主主義へと、一夜にして思想が180度変わったわけです。おかげで、ぼくは“思想”のない人間になってしまった。「思想」がない、というのは謙遜だと思いますが、「論理」よりも「肉体」や「直観」を重視するのは横尾さんの特徴であり、それは「昭和」という時代によって培われたものであるのです。たぶん「昭和NIPPON」展は、頭で考えるのではなく、あの時代の「濃い」感覚を、横尾さんの作品を通じて身体で受けとめるのが相応しい展覧会なのかも知れません。

山本淳夫 | 本館学芸課長



「戦争の涙」2009 | 作家蔵

## Information 次回展関連イベント

### 阪神・淡路大震災20周年展 横尾探検隊 LOST IN YOKOO JUNGLE

2014年4月12日(土)～6月29日(日)  
休館日: 月曜日 [ただし5月6日(月)は開館、5月7日(水)は休館]  
観覧料: 一般500(400)円、大学生400(320)円、高校生・65歳以上250(200)円、中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体割引料金 ※前売り券は販売しません  
※障がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

講演会  
「ジャングル・砂漠・雪氷極地…探検千夜一夜物語」  
講師: 二名良良 (探検家)  
4月20日(日) 14:00- 1時間半程度  
会場: 当館 オープンスタジオ  
対象: 小学生から (大人のみ参加可)  
定員: 100名 (当日先着順)  
※聴講無料・要観覧券

Y+T上映会  
「一横尾さんのターザンの原点—ワズミュージア主演映画『ターザン』」  
4月26日(土) 18:00- 2時間程度  
会場: 当館 オープンスタジオ  
定員: 150名 (当日先着順)  
※途中入退場可能  
※参加無料・要観覧券  
※小学生は保護者同伴のこと  
※聴講無料・要観覧券

### 兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

特別展 阪神・淡路大震災20周年展  
夢見るフランス絵画 一印象派からエコール・ド・パリへ  
4月12日(土)～6月1日(日)

東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術  
6月14日(土)～7月21日(月・祝)

県美プレミアム  
特集展示: ノアの方舟—蒐集による作品たち  
3月22日(土)～7月6日(日)

※兵庫県立美術館の特別展又は県美プレミアムの有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記  
一年間美術館ニュースの編集を担当させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。また、「こんなこと知りたい!」などご希望がありましたらぜひ教えてください。それでは次号もお楽しみに! (本庄)

## 横尾忠則 展覧会情報

### ポスト・ピカソ

2014年3月6日(木)～6月29日(日) ピカソ美術館 | バルセロナ(スペイン)  
ピカソ芸術に影響を受けた現代アーティストの作品を集めた企画展。パスキア、ジャスパール・ジョーンズをはじめ、世界中から41名のアーティストの作品が出品されます

### 寂聴 奇縁まんだら展

2014年4月26日(土)～6月8日(日) 徳島県立文学書道館 | 徳島  
瀬戸内寂聴さんのエッセイ『奇縁まんだら』を紹介する展覧会。横尾さんが描いた挿画が展示されます

### ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉

2014年5月27日(火)～9月15日(月・祝) 国立国際美術館 | 大阪  
現代アートと懐かしさをテーマに、10組の日本人作家の作品を紹介する展覧会です

### 横尾忠則 肖像図鑑 HUMAN ICONS

2014年6月28日(土)～9月23日(火・祝) 川崎市市民ミュージアム | 神奈川  
昨年当館で開催した展覧会が巡回します

### 横尾忠則展(仮称)

2014年10月3日(金)～12月7日(日) 鹿児島県霧島アートの森 | 鹿児島  
横尾さんの作品に多用される「洞窟」のイメージを起点に、多様な画業を紹介する個展です

### インターナショナル・ポップ

2015年4月11日(金)～9月6日(土) ウォーカー・アート・センター | ミネアポリス(アメリカ)  
1960-70年代に起こった国際的な現象としてのポップ・アートを検証する展覧会。横尾さんのポスターが出品されます

このほかにも、横尾さんの作品を楽しめる展覧会が国内外で多数開催されます。詳細は各美術館のHPなどでご確認ください。

開館時間 10:00-18:00 (金・土曜日は10:00-20:00) ※入場は閉館の30分前まで  
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始 メンテナンス休館  
Y+T MOCA 〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30 Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888 www.ytmooca.jp  
facebook twitter

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.5  
2014年4月20日発行  
編集・発行: 横尾忠則現代美術館 印刷: 株式会社 大伸社

the Y+T Times  
横尾忠則現代美術館ニュース  
Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER



## Special Report “横尾忠則の「昭和NIPPON」—反復・連鎖・転移”

### Event Report

- 01 開館1周年記念 対談 横尾忠則×瀬戸内寂聴
- 02 細野晴臣ライブ
- 03 みんなでつくる大きな肖像 一模写して、つなげる

### Column

作品・資料の保存と活用2 —保存額装—

### Preview

阪神・淡路大震災20周年展 横尾探検隊 LOST IN YOKOO JUNGLE

SPRING 05 2014.04.20



空襲で真っ赤に染まった空。横尾さんの幼児体験

「戦後」1985 | 原美術館蔵 フレームは建築家の磯崎新による

Special Report  
横尾忠則の「昭和NIPPON」—反復・連鎖・転移



中山修司主宰「天井桟敷」のポスター

忘れえぬ英雄 昭和狭伏伝



2014年4月12日(土)～6月29日(日)



《地球の果てまでつれてって》1994 作家蔵

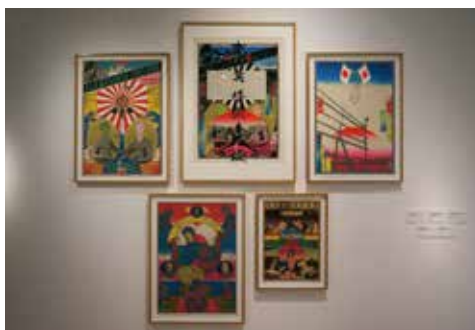
故郷・西脇で見た景色や、愛読書の登場人物、劇場で見た映画など、幼少期の体験は、横尾さんにとってインスピレーションの源泉であり、様々な形で作品に反映されています。例えば、学生服を着た少年たちは江戸川乱歩の小説に登場する少年探偵団、ライオンを従えた少年は南洋一郎の冒険小説の主人公・バルーバ、海中を彷徨う潜水夫はジュール・ヴェルヌの『海底二万里』から引用されています。彼らは、めくるめく探検に心躍らせた自身を反映した姿であり、見る者を描かれた世界へと誘ってくれます。洞窟や密林の風景には、横尾少年が親しんだ絵物語『少年王者』やターザン映画、山川惣治や鈴木御水らが冒険小説に添えた躍動感溢れる挿絵によって形成された世界観が色濃く表れています。そうした作品からは、横尾さんが持ち続けている少年の心が感じられると同時に、子どもの頃に誰しもが持っていた冒険心や、目に映る全ての物にワクワクしていた気持ちを思い出させてくれます。本展では横尾少年を取り巻いていた物事が作品に与えた影響を紹介すると共に、実際に読んでいた書籍や、制作の手がかりとなるアーカイブ資料をあわせて紹介することで、そこに潜む横尾さんの「遊び心」に注目します。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

Column 作品・資料の保存と活用2 ー保存額装ー



額装作業



当館汎用額 (展示風景)

展示室において「見えているけど見えないもの」「見る人の印象に残ってはいけないもの」そして、「一番近くで作品を守っているもの」そんな存在に徹しているのが「額」なのではないでしょうか。一般に、「額」に求められる役割は「作品を（装飾し）より良く見せること」そして「作品を壁に架けるための機能」でありましょう。しかしながら、美術館における「額」の役割は少し違った意味合いがあります。まずは「作品の魅力が邪魔しない」こと、そして「展示室における作品の保存容器」であること。一部の作品を除いて、当館のポスターや版画・原画などの展示に使用する「額」は「汎用（共用）額」であり、1点ずつの作品にあわせてあつらえたものではありません。ですから展示空間になじみ、どの作品にも合うクセのないデザインを選択しています。そうすることで作品自体の持つ魅力がより際立つのです。収蔵庫と比べて展示室には作品の保存にとって良くない劣化要因がたくさん存在します。鑑賞するための照明、鑑賞者の呼気中の水蒸気・二酸化炭素、衣服について持ち込まれる塵埃・昆虫類等々さまざまなリスクが存在します。そういった劣化要因の影響から作品を守る最後の砦が額なのです。例えば、当館では反射率の低い高性能の亚克力を使用し、額自体の密閉度を高めるなどして「保存と活用」両方の役割を果たせるように配慮しています。

上羽真弓 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 01 開館1周年記念 対談 横尾忠則×瀬戸内寂聴

2013年12月14日(土) 14:00- | 当館 オープンスタジオ(1F)



絶妙なコンビネーションの二人

で“草津温泉”について喋っていたところ、瀬戸内さんがそれを「北朝鮮」と聞き間違えていて、お互い怪訝に思いつつも、しばらく会話が続けていたそうなのです。他にも一緒に行ったインド旅行での話や、ゴルフをしたときの話など、興味深いエピソードが次から次へと飛び出し、話の種は尽きません。横尾さんは2008年に小説『ぶるうらんど』で泉鏡花文学賞を受賞するなど、文筆業においても活躍していますが、その文学的な才能をいち早く見だし、最初に小説を書くことをすすめたのも瀬戸内さんなのだとか。『ぶるうらんど』は「あの世のことを書いた話。横尾さんが書くあの世はすごく楽しそうで、死にたくなる」と冗談めかした瀬戸内さんですが、目下執筆中の小説のタイトルはその名も『死



瀬戸内さんのエッセイ『奇縁まんだら』挿絵の展示

に支度』。「私は小説のことしか考えていない。ただ、いい小説が書きたい」と話す瀬戸内さんからは、笑い話の中にも随所に執筆への確固たる意志が感じられます。一方で「芸術家はどんどん変わっていくべき」とも語る瀬戸内さんは、自分を変えるために何度も引越越しをしてきたといいます。それに対して「変わりたいと思ったことはない」と話す横尾さん。しかし、病気や怪我などを転機に「気がつくと変わっている。飽きっぽいです」。また、小説に関しては「アイデアは7本くらいある」という横尾さんですが、「でも、時間があるなら絵を描きたい。絵と小説は全然違う。絵は言葉を排除する作業だけれど、小説は言葉で表現するもの」と、絵画制作へ意欲を示しました。お二人の絶妙な掛け合いに、会場からは終始笑い声が絶えず、開館1周年記念を飾るにふさわしい盛大なイベントとなりました。

林優 | 本館学芸員

EVENT REPORT 02 細野晴臣ライブ

2013年12月1日(日) 19:00- | 当館 オープンスタジオ(1F)



ギターを爪弾く様も格好良いです

昨年引き続き、今年も当館にて細野晴臣さんのライブ第2弾を開催することができました。さらに、今年はなんと横尾さんが当日にサプライズで登場。2曲目を歌い終えたところで、急遽、細野さんと横尾さんのショート・トークが始まりました。左足親指の怪我で療養中だった横尾さん。「でもお医者さんは治っていると言ってます。だから時と場合によって治ったフリをしたり、治っていないフリをしたりするという新しい生き方をしようかなと…」「いや、横尾さん、それ新しくないですよ。前からやってきましたから」と、昔から横尾さんを知る細野さんがすかさず突っ込み。「でも横尾さん、相変わらず若いですね」と感心する細野さんに対しては、「細野さんはちょっと老人っぽいな」と茶化す横尾さん。お二人の交わす軽口が、会場の笑いを誘っていました。ライブでは『ろっかまいべいびい』『悲しみのラッキースター』のほか、『Flat Foot Floogie』『Tutti Frutti』などのカバーも披露され、今年も本当に素敵な一夜となりました。次回もお待ちしております！

林優 | 本館学芸員



突如始まった横尾さんと細野さんのトーク

EVENT REPORT 03 みんなでつくる大きな肖像 ー模写して、つなげる

2013年11月23日(土・祝) 14:00- | 当館 オープンスタジオ(1F)



写真を見ながらの模写。描き方は十人十色



完成作品の前でパチリ

を工夫しながら、模写を行っていきます。点描風の筆致で描かれた作品、ビビッドで大胆な色面を用いた作品、さらに、鉛筆一本で驚くほど精緻に描き込まれた作品など、「模写」をベースにしながらも、その表現方法は多種多様で、スタッフも感心させられるばかりです。最後に全員の画用紙を集めて、一つ一つ壁に貼り付けてつなげていくと……完成！出来上がったのは、ビートルズの肖像。この作品は、肖像図鑑展の会期中 1F オープンスタジオに展示され、その後開催されたイベントの舞台背景としても大活躍しました。

林優 | 本館学芸員

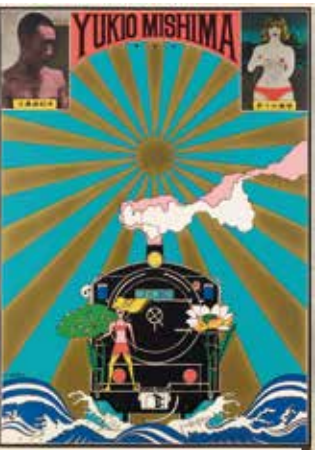
Editors' Choice MUSEUM SHOP・建築案内

MUSEUM SHOP 定休日:休館日に同じ Tel 078 855 5697



(上) 色とりどりのバッグ (下)《終りの美学》をモチーフにしたスカジャン

今回はバッグやアパレルなど横尾グッズの「柄」についてご紹介します。ミュージアムショップにずらっと並ぶバッグのデザインには、1960年代を代表する横尾さんのイラストが多く使用されています。例えば、放射線状に伸びた線が印象的なトートバッグは《終りの美学》をモチーフにしています。その他、同様のデザインはSKA JACKET(スカジャン)にも展開しています。いわゆるスカジャンは、第二次世界大戦後間もない頃、横須賀米軍基地で日本駐留のアメリカ軍兵士達が記念として鷲や虎などのオリエンタル柄の刺繍をテラーショップにオーダーしたのが始まりだといえます。今回の展覧会「横尾忠則の『昭和NIPPON』」にも通じるものがありますね。このようにグッズから作品や時代背景を探っていくのも楽しいですよ。



《終りの美学》(発狂社) 1966 | 作家蔵

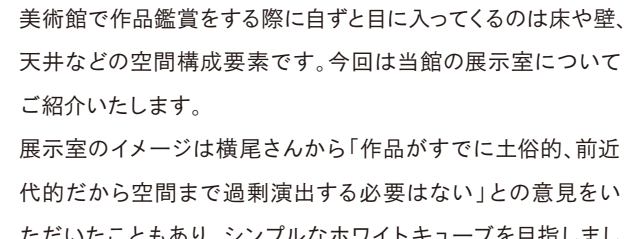
本庄洋子 | 本館学芸員補助

建築案内 内装編～展示室について

床材:コンクリート研ぎ出し仕上げ・クリア塗



(上) 2F 展示室 A [H=3.85/5.5m] (下) 3F 展示室 B [H=3.85m]



(上) 2F 展示室 A (『昭和NIPPON』展より) (下) 3F 展示室 B (『昭和NIPPON』展より)

本庄洋子 | 本館学芸員補助

美術館で作品鑑賞をする際にまず目に入ってくるのは床や壁、天井などの空間構成要素です。今回は当館の展示室についてご紹介いたします。展示室のイメージは横尾さんから「作品がすでに土俗的、前近代的だから空間まで過剰演出する必要はない」との意見をいただいたこともあり、シンプルなホワイトキューブを目指しました。ただし、当館は既存の建築物をリニューアルしたため、構造や設備の整備と展示空間としての質の確保というせめぎ合いの中で現在の展示室が生まれました。特に学芸員が力入れたのが床です。展示室の床は古い躯体を職人の手磨きにより水平に仕上げられています。経年変化によるコンクリートの自然なひび割れや汚れと、真っ白な壁や天井の対比により緊張感のある空間が生まれています。美術館を訪れる際は、ぜひ展示室の床にも注目してみてください。